

～ 子供が感じている暑さ ～

危険とも言える“猛暑日”が続いています。

「熱中症警戒アラート」が発表されることも多いですが、暑さの感じ方には個人差があります。

その中でも子供はどう感じているのでしょうか。

先日気になった記事がありましたので、ピックアップしてみます。

<身長によって体感温度は変わる！>

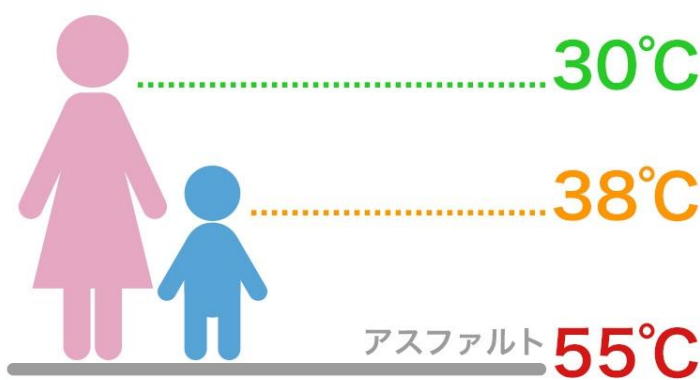
地面近くの空気は、**地面に近いほど温度が高くなります。**

夏の強い日差しの照りつけで、気温が30℃くらいの日でも、**アスファルトは簡単に50℃以上にまで上昇します！**

大人はおよそ1.5mくらいの所で息をしているため、顔の回りの環境は気温と同じ30℃くらいです。

しかし、**小さい子どもの顔の回りでは**

38℃くらいにも達しており、ベビーカーではもっと厳しい環境になっているのが原状です。



<子供は熱中症になりやすい!!>

暑い日になりやすい「熱中症」ですが、実は**子どもの方が注意が必要です。**

そもそも、熱中症を引き起こす条件には、「環境」と「からだ」と「行動」があります。

(環境)

気温が高い、湿度が高い、風が弱いなど。

上記でお伝えしたとおり、**身長の低いこどもは、大人に比べて、高温の環境下で過ごしている事になります。**

(からだ)

激しい運動によって体内に著しい熱が生じたり、暑い環境に体が十分に対応できないことなど。

特に、**小さな子供は汗をかく機能が未熟なため、からだに熱がこもりやすくなる。**

(行動)

長時間の運動や水分補給をしないなど、**遊びに夢中になっているこども達は、水やお茶を飲まずに長時間遊んでしまいます。**

以上の3点から、子どもは大人より熱中症にかかりやすいと言えます。

<「ヒトとペット」体感温度の違い>

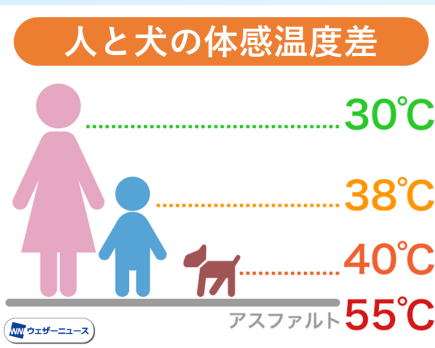
前頁はヒトにポイントを当てましたが、次はペットです。例えば犬の体感温度を調べてみますと、ヒトが「快適」と感じる温度は、犬にとって「暖かい」と感じ、ヒトが「暖かい」と感じる温度は「暑い」となるそうです。

犬の基礎体温は38℃後半から39℃前後といわれており、ヒトよりも少し高めです。

さらに、犬は全身毛でおおわれており、ヒトよりも体高が低いため、地面からの熱を受けやすく、体感温度はヒト以上の暑さを感じています。

ヒトが暑いと感じていない場合でも、犬の体感温度は暑いと感じているケースもあり、ヒトと犬とではおよそ17℃も体感温度に差があった実験結果もあります。

なので、ヒトが「暑い」と感じる時は犬にとって「死ぬほど暑い」温度になります。逆に、ヒトが死ぬほど寒いと感じる時は「寒い」くらいであり、寒さというよりは犬種によりますが、一般的には暑さに対して弱い生き物です。イメージすると下記のような感じです。



ヒト	死ぬほど寒い	寒い	涼しい	快適	暖かい	暑い
犬	寒い	涼しい	快適	暖かい	暑い	死ぬほど暑い

そんな環境の中で、熱中症による死亡率も30%～50%もあり、夏の生活には、特に気をつけてあげる必要があります。

散歩の時間も、その際の水分も大切になってきますし、気温だけでなく地面の温度も大切になってきます。

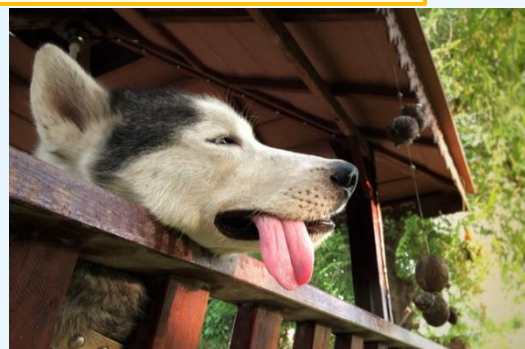
気温の高い日には、アスファルトの温度も上昇し60℃～65℃に上がります。

例えるなら、目玉焼きが焼けてしまう程の温度になります。

そんな道の上を靴も履かずに歩きますのでヒトの感覚で行動してしまうと火傷につながってしまいますので、夏場は特に注意が必要になります。

暑い時期になると車内で留守番をさせていた犬が熱中症で亡くなったニュースを見ることがあります。ヒトの感覚で行ってしまうと、犬にとっては生命の危機になりかねません。

夏場の時期は留守番を可哀想と思わず、良い環境で留守番をさせることの方が犬にとって幸せかもしれませんね。



**「売・貸物件
不足しております！」**

好評につき、物件が不足中です
掲載料や面倒な手続きは必要ありません。
「ご依頼」を頂くだけで結構です。

<https://maruhiro2103.co.jp>

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、声かけ頂ければ、何でもお役に立てます！

～土地・建物のよろず屋～

マルヒロ不動産(株)

名古屋市中村区横前町109番地

TEL: 052-413-4628

